

【単元のポイント】

1けたでわる わり算の筆算

4年生 算数 第3単元

学習指導要領（平成29年告示）の目標

【A 数と計算】整数の除法

除数が1位数や2位数で被除数が2位数や3位数の場合の計算が、基本的な計算を基にしてできることを理解し、その計算が確実にできること。また、その筆算の仕方について理解すること。

◆ 評価の3観点における目標

【知識・技能】

- 2位数や3位数を1位数でわる計算の仕方を理解している
- 筆算の形式を理解し、確実に計算できる
- 除法の計算が確実にでき、それを用いることができる
- あまりのある除法の検算ができる

【思考・判断・表現】

- 既習の計算の仕方を基に、1位数でわる除法の筆算の仕方を考えている
- 商の立つ位置について、被除数と除数の関係から見積もることができる
- 計算のきまりを基に、計算の仕方を多様な方法で表現できる

【主体的に学習に取り組む態度】

- 筆算の仕組みに関心を持ち、進んで計算しようとしている
- 日常生活で除法が使われる場面を見いだそうとしている

◆ 指導上の留意点（学習指導要領解説より）

1. 除法の意味と計算の仕方

- 除法は「等分除」と「包含除」の2つの意味がある
- 等分除：「全体を○等分した1つ分」（例：12個を3人で分けると1人何個）
- 包含除：「全体を○ずつ分けると何人分」（例：12個を4個ずつ分けると何人分）
- 筆算では両方の意味を活用できることを理解させる

2. 筆算の手順「たてる・かける・ひく・おろす」

- 商を立てる位置を最初に決める（最上位から考える）
- 「たてる→かける→ひく→おろす」の手順を繰り返す
- 各位での計算が乗法九九を基にしていることを意識させる
- 位ごとの部分積と差を正確に書く習慣をつける

3. あまりのある除法

- あまりは必ず除数より小さくなることを理解させる
- 検算：商 × 除数 + あまり = 被除数 で確かめる習慣をつける
- 実生活では「あまりを使う場面」と「使わない場面」があることに気づかせる

4. つまづきやすいポイント

- 商の立つ位置を誤る（百の位から立てるべきところを十の位から立てるなど）
- 0を商に立てる場合の処理（例： $306 \div 3 = 102$ ）
- あまりが除数以上になってしまう（商を1小さく立ててしまう）
- 繰り下がりのある引き算でミスする

◆ プリント作成時の配慮事項

1. 計算スペースの確保：筆算を書く十分なスペース（50mm以上）を確保する
2. 段階的な難易度：2位数 ÷ 1位数 → 3位数 ÷ 1位数 → あまりありの順に配置
3. 等分除・包含除の両方：文章題では両方の意味を含める
4. 誤答例の活用：典型的な誤りを題材にした「まちがい探し」問題を含める
5. 検算の習慣化：検算の方法をヒントとして明示する
6. 実生活場面：色紙、テープ、本、おかしなど具体的な場面を使う